

「私」と呼ばない自分

岐阜市立藍川中学校 3年
亀山 千裕（かめやま ちひろ）

みなさんは、自分のことを何と呼んでいますか。日本語には一人称がたくさんあります。「私」「僕」「拙者」「僕」、自分の名前など。一般的には男性は「俺」や「僕」、女性は「私」や「あたし」でしょうか。でも、本当の意味で「正しい」一人称とは、どんな言葉なのでしょう。そして、「正しい」とは、誰にとっての正しさなのでしょう。自分は自分のことを「こっち」と呼んでいます。「こっち」は一人称ではなく、方向を表す指示語です。

なぜ自分が指示語を一人称として使っているかという、自分は自分を「私」と呼ぶことに抵抗があり、違和感を覚えているからです。

小さい頃、自分の一人称は自分の名前でした。何も考えず、周りの人が言っているのを真似していただけでした。特に何かを感じることはありませんでした。しかし、小学生になって何年か経った頃、周りの友達が、自分のことを「私」と言うようになったことを機に、特に何も考えることなく、自分の呼び方も「私」にしてみようと思いました。しかし、「私は～」と話そうとするたび、何とも言えないモヤモヤとした感覚を覚えるようになったのです。

このようなこともあり、これ以上「私」と自分を呼ぶことをやめようと思い、自分のことを何と呼ぶのか考えることにしました。名前で呼ぼうか、いや、もう大きくなって、それはちょっと恥ずかしい。では、どうするか・・・と悩んだ結果、「こっち」ということで収まりました。

しかし、「こっち」という呼び方は普段使いにはいいのですが、学校の授業などでは、そぐわないと思い、学校では「私」という一人称を使おうと決めました。それはやはり、一般的に「私」という一人称が正しく、そう言わないことが悪いことであるかのように思っていたからです。ですが、6年生の頃に授業中などで「私」と自分で言うことに対して、強い抵抗感を覚えるようになりました。そこで「私」に変わる自分を表す適切な一人称は何か必死で考えました。誰が聞いても違和感を覚えず、自分が苦痛でない呼び方を。そうして、たどり着いたのは一人称を「使わない」ということでした。もう、気付いている人もいるかもしれませんが、こうしたスピーチの原稿や作文などでも、どうしても一人称を使わなければならない時には「自分」と書くようにしています。学校や家で「私は」という主語を使わないとどうなるか。少々ぶっきらぼうな形になってしまいます。文章を書いても、何だかとても固い雰囲気が出てしまいます。だから、周りの人は自分のことを「無愛想な人だ」と思うかもしれません。でも、そうするようにしたら、話すことも書くことも抵抗なくてきて、すごく楽になりました。だから、それは今でも続いています。

このままではよくないということは自分でも思います。でも、最近こうも思うようになりました。「この一人称の使い方は、本当に直さなくてはならないものなのか。悪い使い方なのだろうか」と。以前の日本は正しいことは一つで、みんなと同じようにすることがよいとされてきました。しかし、今は何でも同じ型にはまらなければならないという考え方が変わりつつあります。一人一人の個性、少数の個性が認められ、多様性が許される社会になってきています。親や先生、友達は「こっち」「自分」という一人称を使っても「変だ」とか「おかしい」という人はいません。周りの人が何も言わず、受け入れてくれていることがとてもうれしいです。周りの人は気にしていないだけかもしれませんが、自分にとっては、それがすごく楽で、これでいいんだと思え、そのまま自分をさらけ出す支えや助けになっていると感じます。

このことは現代社会においても同じように言えるのではないかと思います。自分のような呼び方に悩む人いれば、LGBTの当事者の方々、世間一般でマイノリティだと言われている人たちも多くなります。こうした人たちの個性を否定せず、受け入れていこうとすることで、他の人との違いに悩む人を助けられるかもしれません。救える心があるかもしれません。世の中の人たちが、「正しい」ということの意味、誰にとっての「正しい」なのかを考えていくことができれば、たくさんの方が生きやすくなるのではないかと思います。「こっち」も受け入れてくれた周りの人達のように、色々な人の個性が受け入れられ、よりよい社会に変わっていくことを強く願っています。